

## 診断支援システム DSS がもたらす変化

～アボット社製診断支援システム DSS のご紹介～

◎古山 慶一郎<sup>1)</sup>

アボットジャパン株式会社 マーケティング部<sup>1)</sup>

現在、病院を取り巻く環境は大きく変化しています。家族や知人の評判で病院を選ぶ患者が増える中、医療事故数は増加しています。医療訴訟になった場合は賠償の有無に関わらず病院の評判に影響するため、医療安全対策は病院経営の重要課題となっています。

日本臨床衛生検査技師会が臨床検査技師の未来構想として「臨床検査データを出すだけでなく、チーム医療を推進する一員として被検者の QOL を考え、そして医師の診断・治療をサポートできる医療人へ」を基本理念に掲げられている(注 1)通り、臨床検査部門は今まで以上に臨床支援活動の拡大が求められています。しかし、国民医療費が伸び続け、保険点数が抑制され続ける中、活動拡大のために技師を増やすのは容易ではありません。また、新たな活動を高品質かつ安定的に行うための教育・仕組みも必要になります。

これらの環境下でこの基本理念を実現するには、既存業務を見直し、効率化を進めることに加え、臨床支援活動自体も仕組み化により効率的に実施できる必要があります。この仕組みによる効率化をサポートするのが診断支援システム DSS です。

診断支援システム DSS は 3 つの要素から構成されています。(1)事前に登録した解析ロジックに基づき検査オーダー・検査結果をリアルタイム自動解析するシステム、(2)運用状況の分析や運用プロセスのご提案などを行う運用支援コンサルティング、そして(3)DSS ユーザ間で施設を超えて解析ロジックを共有する仕組みです。これらを組み合わせた総合サービスにより、病態・疾病の見落とし削減を実現し、ご施設の医療安全に貢献するための診断支援活動の円滑な立ち上げ・実施・継続改善をサポートします。

本ランチョンセミナーでは、本総合サービスの概要および運用成果についてご紹介します。

注 1) 日本臨床衛生検査技師会 平成 25 年 3 月 28 日  
答申書

文書番号 201707020

連絡先：092-291-6651